月1回不定期開催

桜井市こども食堂 まめっこ食堂



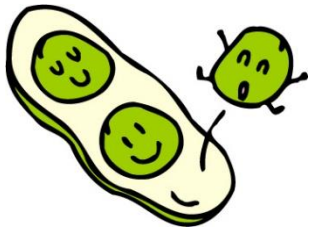
県道５０号沿い新しい住宅が立ち並ぶ、少しその奥にまめっこ食堂があります。
取材日のまめっこ食堂はハロウィン仕様🎃
夕暮れ迫る天理教大和眞分教会の入り口には仮装したこどもたちが「ここやで～」と取材者を呼んでくれます。　2023年11月こども食堂を始めたときに、開催していることがわかるようにと、一番先に買ったという“いただきます。こども食堂”の色違いの旗が揺らめいています。



　食堂を支えるスタッフは、地域で長く子育てしてきた方々や、代表者の家族、そして子育て仲間たち。代表者は子育て中、コロナ禍ということもあり、人と関わる機会や外出する機会が少なく、孤（こ）育てに悩んだ経験から、同じように子育てをする仲間が気軽に集える場所を作りたいと考えるようになりました。「外へ出かけるのが難しいなら、みんなに来てもらえる場所をつくろう！」そんな思いを周囲の人に話したところ、「一緒にやってみよう！」と温かく背中を押してもらいました。周りの人たちの理解と協力を得て、こども食堂を始めることになりました。



　食事をする大広間には低いテーブルとざぶとんが敷かれています。思い思いのところで食事。ちょっとお腹が満たされてくると、幼児は端っこの舞台に置かれたおもちゃで工事現場ごっこがはじまっていました。(笑)







本日のメニューは揚げパン、ミートスパゲティ、サラダ、パンプキンスープ、ハロウィンジュース🎃そしてみかん。ほんのりあったかい揚げパンやスパゲティを食べられるようにとスタッフは厨房を行ったり来たりと忙しそう…。メニューは食事を作ることが好きな代表者が作りやすさ・食べやすさを心がけて考案しているそうです。参加者にこども食堂に来たきっかけを尋ねると「イベントをしてくれる」「食事が終わったら小さい子の遊ぶ場がある」「通う学校は違うが、ここへ来るといつの間にか友だちになれる」等々教えてくれました。



「日々の学校や仕事を終えて、月１回食事をさせてもらってママ友とも良い距離感で話ができて、ホッとする場所です」とも…。18時ころからは「きたよ～」「久しぶり～」と訪れる家族が次々と来られました。
後半には怖そうな仮装をしながらもなんだか優し気なガイコツマン。こどもたちにお菓子のプレゼントがありました。









あとがき

自分の気持ちを表現したり、人との関わりをどのような距離感でとっていくのかが難しくなってきている現在。まめっこ食堂では家族でも親戚でもないけれど、あちこちで言葉を超えた思いを通わす心のキャッチボールが見られました。心を許せる仲間と集まりホッとできる時間の保障、心のメンテナンスは大切だなと感じました。
”孤(こ)育て“にはならない、弓のようにしなる、しなやかな心と体で子育てしていけるようなそんな社会になればいいなと心から思いました。